

622. 超越直径ト Koebeノ定理

(早田氏ノ問題=答ヘテ)

井上 正雄 (阪大)

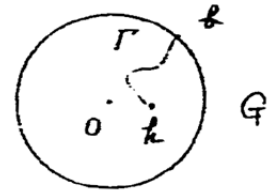
本誌第 138 号 613 = フイテ早田氏 = ヨツテ考察サレ
タ問題 = 解答ヲ與ヘ、且ツソレニ関係シテ超越直径ト Koebe
ノ定理トノ関係 = ツイテニ三ノ考察ヲナシタイ。

談話 = フイテ氏ハ次ノコトヲ豫想サレヌ。

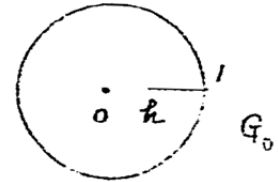
「 ζ 平面上ノ單位円ヲ D トシ、 $\zeta = h$ (h 実数、 $0 < h < 1$) ナルレ点ヲ固定スル。

h ト円周上ノ任意ノ点トヲ原點ヲ通ラナイ單一 Jordan
曲線 Γ = テ結び、 D = コノ曲線 = 沿ツテ Schlitz ヲ

入レタ領域ヲ G トスル。 G ヲ z 平面
上ノ單位円 $|z| < 1$ = 等角 = 寫像スル
函数ヲ $f(z) = z$, $D =$ 実軸



右 $k < 1$ ノ部分 = Schlicht ヲ入レ
タ領域ヲ G_0 トシテ G_0 ヲ $|z| < 1$ =
等角 = 寫像スル函数ヲ $g(z) = z$ トス
ル。但シ $f(0) = 0$, $g(0) = 0$ 。



シカレトキ, 次ノ不等式が成立シ

$$|f'(0)| \geq |g'(0)| \text{ ----- (1)}$$

等号ハ Γ が單位円 = 對シテ直交スル円弧ナル場合 = 限
ル。」

シカシナガラ, コノ問題ハ實ハ Koebe ノ定理ノ特別ノ場合
ト考ヘルコトが出来ル。1)

ソレ = ハ次ノヤツ = 考ヘルバヨイ。

$$|z| < 1 \text{ ヲ } \frac{(1+k)^2}{k} \cdot \frac{z}{(1+z)^2} = w \text{ 平面ノ函数 = ヲツテ } w$$

平面 = 移セバ, ソノ Bildgebiet Δ ハ w 平面 = $\frac{(1+k)^2}{4k}$
 $\leq w \leq \infty$ ナル直線 = 沿ッテ Schlicht ヲ入レタ領域トナ
ル。

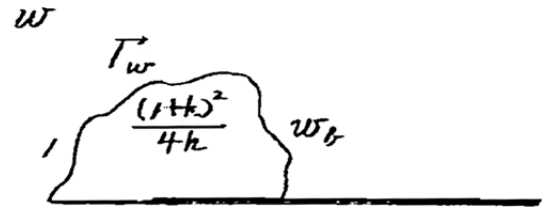
コノ变换 = ヲリ $z = 0$ ハ $w = 0$,

$$z = k \text{ ハ } w = 1, \quad z = 1 \text{ ハ } w = \frac{(1+k)^2}{4k}$$

1) 早田氏ハコノ逆ヲ意圖サレテイヌカモ知レナイガ,

$$\zeta = b \text{ へ } w = \frac{(1+h)^2}{h} \cdot \frac{b}{(1+b)^2}$$

$$= w_b (> 0)$$



= 移サレ Γ へ $w = 1$ ト

w_b トヲ結ブ曲線 $\Gamma_w =$ 移ルモノトスル。

シカラバ

$$\left(\frac{dz}{dw} \right)_{w=0} = \left(\frac{dz}{d\zeta} \right)_{\zeta=0} \left(\frac{d\zeta}{dw} \right)_{w=0}$$

シカレ

$$\left(\frac{d\zeta}{dw} \right)_{w=0} = \frac{h}{(1+h)^2} \text{ ナル故}$$

$$\left| \frac{dz}{d\zeta} \right|_{\zeta=0} = \frac{(1+h)^2}{h} \cdot \left| \frac{dz}{dw} \right|_{w=0}$$

Koebeノ定理ニヨレバ $\left| \frac{dz}{dw} \right|_{w=0}$ が最小トナルトキハ Δ へ

$1 \leq w \leq \infty$ = 沿ッテ Schlichtノ入ッテ領域ノ場合デアリ又コノトキニ限ル。

故ニ $\left| \frac{dz}{d\zeta} \right|_{\zeta=0}$ が最小値トナルノハ Γ_w が $\left[1, \frac{(1+h)^2}{4h} \right]$ ヲ結

ブ線分ニナルトキデアリコノトキニ限ル、即チ $b = 1$ トナリ Γ が実軸ト一致スル場合ニ限ル。

シカモコノトキノ値ハ $\left| \frac{dz}{dw} \right|_{w=0} = \frac{1}{4}$ デアルカラ $\left| \frac{dz}{d\zeta} \right|_{\zeta=0} = \frac{(1+h)^2}{4h}$

デアル。

依ッテ不等式 $|f'(0)| \geq |g'(0)|$ ハ常ニ成立シ、等号ハ Γ が実軸ニ一致スルトキニ限ル。

コレニヨレバ早田氏ノ等号ノ成立スルトキノ豫想ノ間違ヒデアルコトガ解ツタ。

シカラバ氏ノ計算ノ何処ニ缺点ガアツタカ?

ソノ誤謬ヲ角谷氏ハ次ノ如ク指摘サレタ。

「p. 113 = アイテ t 平面上ノ半径 1 ノ右半円ヲ

$t = c \longleftrightarrow z = 0$ ナル如ク単位円 $|z| < 1$ = 等角ニ寫像スル函数ハ

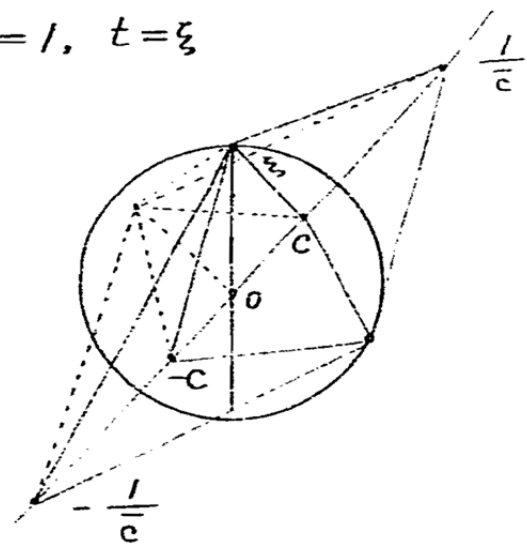
$$z = -\frac{t-c}{1-\bar{c}t} \cdot \frac{1+\bar{c}t}{t+c}$$

カト書ケレテイルガ、コレハ間違ヒデアル。

$t = \xi$ ガ円弧上ニアルトキハ確ニ $|z| = 1$ トナルガ虚軸上ニクルトソウハエカナイノデアル。何故ナラバ虚軸上ノスベテノ点デ $|z| = 1$ トナツタトスレバ

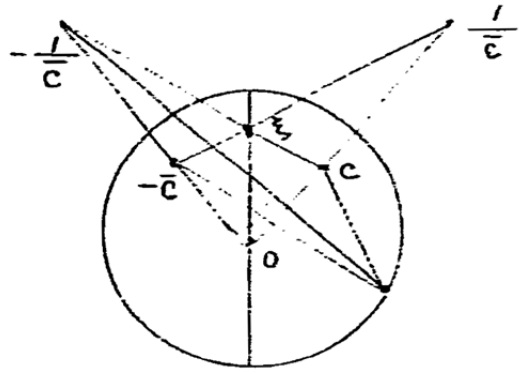
$$|z| = \left| \frac{t-c}{t+c} \right| \left| \frac{t+\frac{1}{\bar{c}}}{t-\frac{1}{\bar{c}}} \right| = 1, \quad t = \xi$$

シカレニ $c =$ 別断制限ガナイカラ之レヲ回轉シア考ヘテモヤハリ虚軸上デ上式ガ成立スルコトカラ円内ノアラエル点デ上式ガ成立スルコトニナリ



矛盾デアル。(c = \bar{c} ナラバ
コレデモヨイ)

シカラバ如何 = スレバヨイ
カト云フ =, t = \xi が半円
ノ同上 = アレバ常 =



$$\left| \frac{t-c}{t+\bar{c}} \right| \left| \frac{t+\frac{1}{c}}{t-\frac{1}{\bar{c}}} \right| = 1$$

トナルカラ $\xi = \frac{t-c}{1-\bar{c}t} \cdot \frac{1+ct}{t+\bar{c}}$ ナル変換ヲトレバヨ
イクトが解ル。

コレ = ヨツテ計算スレバ

$$\left(\frac{dt}{dz} \right)_{z=0} = \frac{(c+\bar{c})(1-|c|^2)}{1-|c|^2}$$

トナリ

$$\left(\frac{d\xi}{dz} \right)_{z=0} = -\frac{2c(c+\bar{c})}{(1+k)^2}$$

トナル, 但シ $c = \sqrt{k} e^{-i\theta}$

故 = $\left| \frac{d\xi}{dz} \right|_{z=0}$ ノ最大値ハ $c = \bar{c}$ ノトキデアリ, コノトキ
= 限ル。

コノトキ $\left| \frac{d\xi}{dz} \right|_{z=0} = \frac{4k}{(1+k)^2}$ トナル。 $c = \bar{c}$ ノトキハ

$k = 1$ ノトキ = 他ナラナイ。」

次 = カナル *Abbildungsmodul* ノ問題ハ超越直径ト深

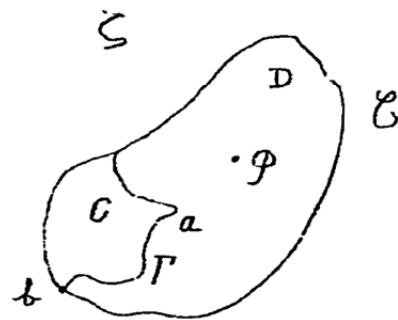
キ爾條ノアルコトハ勿論デアル。コノ超越直徑ヲ使ツテ一般ノ領域ノ場合ニ對スル前述ノ問題ヲ考ヘルコト一シヨウ。

一般ノ場合トハ

「 ζ 平面上ノ任意ノ單一連結ナ曲線 C デ兩マレタ領域 D ノ内部ニ一点 a ヲ取り、又 C 上ニ点 b ヲトル。更ニ D 内ニ a 以外ノ一点 p ヲとり a ト b トヲ D 内デ p ヲ通ラナイ單一曲線 Γ デ結ビ、 $D =$

對シテ $\Gamma =$ 沿ツテ *Schlitz* ヲ入レタ領域ヲ G トスル。

G ヲ他ノ平面ノ單位円内ニ p ヲ原点ニ移スガ如ク等角ニ寫像スル函数ノシテ $p = \rho$ ヲケル



Abbildungsmodul ノ最小ノ函数 (或領域) ハ何か?」

ト云フ問題デアル。

コレヲ考ヘルタメ *Fekete* ノ定理ヲ次ノ如ク書キ直ス。

定理 (*Fekete*)

ζ , z 兩平面上ニ ζ_0, z_0 ヲ夫々内点トシテ 含ム單一連結領域²⁾ ヲ G_1, G_2 トシ、 ζ_0 ガ z_0 ニ對應スルマデ G_1 ヲ G_2 ニ等角ニ寫像スル函数ヲ $f(\zeta) = z$ トスレバ

$$|f'(\zeta_0)| = \frac{d(C\zeta_0, G_1)}{d(Cz_0, G_2)}$$

2) 以下スベテ單位円ニ等角寫像出來ル如キモノヲ著ヘル。

但シ $\zeta = CT_{z_0} G_{z_0}, CT_{z_1} G_{z_1} \wedge G_{z_1}, G_{z_1}$ ヲ夫々
 $\frac{1}{\zeta - z_0}, \frac{1}{z - z_0} = \tau$ 変換シテ領域 $T_{z_0} G_{z_0}, T_{z_1} G_{z_1}$ ノ余
 集合 (有界閉集合) ヲ表ハシ, d ハソノ超越直径ヲ示
 ス。

エノ定理 = ヨレバ G ヲ單位円内ニ寫像スル函数ヲ $f(\zeta) = z$
 トスレバ

$$|f'(p)| = d(CT_p G)$$

トナルカラ問題ハ $\frac{1}{\zeta - p}$ + τ 変換 = ヨツテ a ノ極ノ点ヲ
 a_p トスルトキ, $CT_p D$ ト a_p トヲ如何ナル曲線 = τ 結ビ
 ムソノ超越直径ガ最小 = ナルカト云フ問題 = 帰着スル (最
 初ノ問題ハ $CT_p D$ カ円トナル特殊ノ場合デアル)。

先ヅ $T_p D$ ヲ $\zeta = \infty \leftrightarrow w = \infty$

ナルカ如ク $|w| > 1$

= 等角 = 寫像スル函数ヲ

$$\zeta = \tau w + c_0 + \frac{c_1}{w} + \dots,$$

$$c = d(CT_p D)$$

トシ a_p / Bild ヲ $a_{p,w}$,

T_p / Bildkurve ヲ

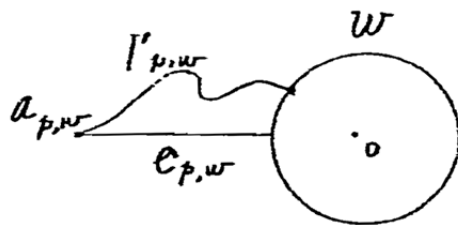
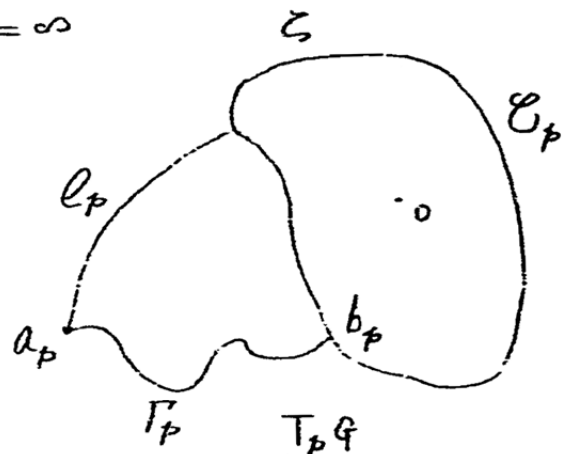
$T_{p,w}$ トシマシ。

$|w| > 1 = T_{p,w} =$ 沿ツテ

Schlitz ヲ入レテ領域

ヲ $(T_p G)_w$ トシ, コレヲ $|z| > 1 = \infty \leftrightarrow \infty$ ナルカ如ク

等角 = 寫像スル函数ヲ



$$w = \lambda z + \lambda_0 + \frac{\lambda_1}{z} + \dots, \quad \lambda = d(C(T_p G)_w)$$

トシ、コレヲ合成スレバ $T_p G$ ヲ $|z| > 1$ = 等角 = 寫像スル函数

$$\zeta = \lambda \tau z + C_0 + \frac{C_1}{z} + \dots$$

カ得テレル。コトニ

$$d(C(T_p G)) = \lambda \tau$$

デアル。

故ニ $d(C(T_p G))$ ガ最小ナルノ入ノ最小ナルトキデアル。

處カ既ニ解決シタ前記ノ問題ハ要スルニ「円ト外部ノ一点トヲ與ヘコレヲ結ブ曲線ノうち、ソノ集合ノ超越直径ノ最小ナルノハソノ点カラ最短距離ナル点ヲ直線ニ結ンダモノデアリ且ツコレニ限ルト云フト同ジデアルカラ $\Gamma_{p,w}$ ガコノ性質ヲ満足シテイル線分 $l_{p,w}$ ³⁾ = 一致スルトキ限り入ガ最小ナル。故ニ $l_{p,w}$ ノ Urbild ヲ l_p トシ $T_p D = l_p$ = 沿ツテ Schlitze ヲ入レタ領域ヲ $T_p G_0$ トスルトキ

$$l_p \neq \Gamma_p \text{ ナラバ } d(C(T_p G_0)) < d(C(T_p G)) \text{ 4)}$$

コレヲ問題ハ解決シタ。

3) ソノ点ト円ノ中心トヲ結ブ直線ニヨツテ外側ニ結ンダモノデアル。

4) コノトキモ最短距離ノ点ヲ線分ニ結ンダモノガ求メルモノニナレヌウナ氣カスルガ實ハソウデナイコトガ解ツクデアル。超越直径ノ面白イ性質ト思フ。

元へ戻せば h_p が $\frac{1}{z} + p$ で変換した曲線 γ にとスルトキ $D = \mathcal{L} =$ 沿って *Schlicht* を入れた領域 G_0 が求める領域であり、之れ = 関する写像函数 / *Abbildungsmodul* が最小 = ナルノデアル。

次 = 再び特殊な場合 = 戻って、前ハ *Koebe* の定理 (ト $\gamma = \text{extremalgebiet} =$ 関する部分) を使って前述の問題を解決したノデアルが (1) ナル不等式がケナラバ別断 *Koebe* の定理をソノマニ使ハズトモ *Fekete* の定理カラ次ノ如ク証明スルコトが出来ル。

問題 = 写像函数 $f(z)$, $g(z) =$ *Fekete* の定理を適用スレバ不等式 (1) ハ

$$|f'(0)| = d(C_{T_0} G) \geq d(C_{T_0} G_0) = |g'(0)| \dots \dots (1)'$$

トナル。

シカル = 超越直径ハ又 *Robin* の常数 = ϵ 等しいカラ、 $T_0 G$, $T_0 G_0 =$ 関する ∞ を極トスル *Green* の函数を夫々

$$G(z, \infty, T_0 G) = \log |z| + H_{T_0 G}(z)$$

$$G(z, \infty, T_0 G_0) = \log |z| + H_{T_0 G_0}(z)$$

トスルトキ

$$d(C_{T_0} G) = e^{H_{T_0 G}(\infty)}$$

$$d(C_{T_0} G_0) = e^{H_{T_0 G_0}(\infty)}$$

依って不等式 (1) ハ

$$H_{T_0 G}(\infty) \leq H_{T_0 G_0}(\infty)$$

トナル。

更ニコノ不等式ハ G 及 G_0 ノ境界上ニテ $\log|\zeta|$ ナル位
ヲトル G 及ビ G_0 内デノ調和函数ヲ夫々 $H_G(\zeta)$, $H_{G_0}(\zeta)$ ト
スレトキ

$$H_G(0) \leq H_{G_0}(0) \text{ ----- (1)''}$$

トナル。

シカルニ, コノ不等式ハ常ニ成立スル。

何故ナラバ $E_{G,0} \supseteq E_{G_0,0}$ ⁵⁾ ナ

アルカラ良ク知ラレタ *majorante*
harmonique = 関スル定理 ⁶⁾ =

ヨツテ

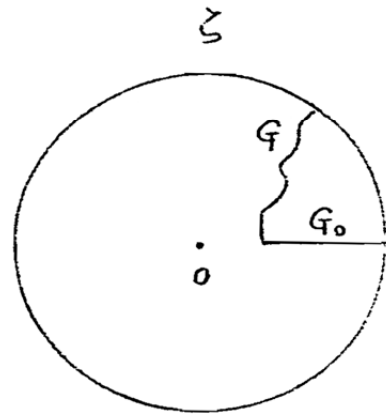
$$\text{一般ニ } H_G(\zeta) \leq H_{G_0}(-|\zeta|)$$

$$\text{トクニ } H_G(0) \leq H_{G_0}(0)$$

ヨツテ (1)'' 即チ (1) ナル不等式ハ常ニ成立スル。

尚又 *Fekete* ノ定理ヲ使ツテ談話 613 = フケル 関係
式 (2) ヲ証明スルコトモ出来ル。

即チ ζ 平面上ニ原点ヲ内点トシテ含ミ, $h(>0)$ ノ境界
点トシテ含ム 単一連結領域 ⁴⁾ ヲ G , $\arg w = 0$, $|w| \geq h$
ナル直線ニ沿ツテ ζ 平面ニ *Schlicht* ヲ入レタ領域ヲ G_h
トシ, G 及ビ G_h ヲ $|z| < 1$ = 原点カ互ニ對應スル如ク等角
ニ寫像スル函数ヲ夫々 $f(\zeta)$, $g(\zeta)$ トスレバ常ニ



5) $E_{G,0}$ ハ G ノ 0 ヲ原点トスル *projection* ヲ表ハス。本誌
136号, 603. p.52.

6) *Beurling: Etudes sur un prob. de maj.* p.45, p.52.

$$|f'(0)| \geq |g'(0)| \text{ ----- (2)}$$

何故ナラバ,

ルヲ通り ∞ マデ延ビル曲線 Γ = チラ平面 = Schlicht
ヲ入レテ領域ヲ G^* トス。

Γ ヲ適當ニトレバ

$G^* \supseteq G$ ナラシメ得ル。

G^* = 閉スル寫像

函数ヲ $g^*(z)$ トス

レバ $G, G^* =$ 定理

ヲ使ヘバ

$$|f'(0)| \geq |g^{*'}(0)|$$

更ニ $G, G_h =$ 定理ヲ應用スレバ

$$|g^{*'}(0)| = d(C T_0 G^*)$$

$$|g'(0)| = d(C T_0 G_0)$$

シカルニ有限ナルニ点 $[a, b]$ ヲ結ブ任意ノ曲線ヲ l , 直線
ヲ l_0 トスルトキ

$$d(l) \geq d(l_0) \text{ ----- (3)}$$

ナルコトガ容易ニ解ルカラ

$$d(C T_0 G^*) \geq d(C T_0 G_0)$$

依ッテ

$$|f'(0)| \geq |g^{*'}(0)| \geq |g'(0)|$$

—— (証明了) ——

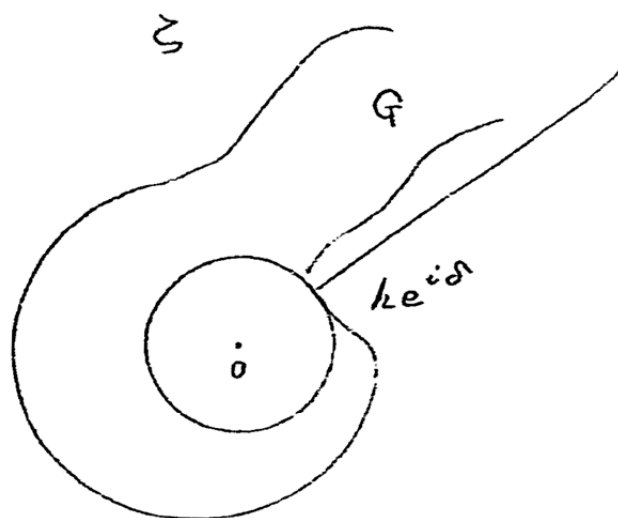
従ツテ, コノコトヲ使ヘバ 既ニ指示サレタ通り定理

“ $f(z) = z = z + a, z + \dots$ ヲ $|a| < 1$ デ單葉ナ正則

函数トシ，コノ Bildgebiet G トスルトキ， G ハ原点
ヲ中心トスル半径 $\frac{1}{4}$ ノ内ヲ含ム”

ヲ次ノ如ク証明スルコト
ガ出来ル。

G ノ境界点ノウチ原
点カラ最モ近ク=アルモ
ノノーツヲ $ke^{i\delta}$ トス
ル。



ζ 平面 = $\arg \zeta = \delta$,

$|\zeta| \geq k + 1$ 直線 = 沿

ツテ Schlicht \rightarrow 入レタ領域 G_k トシ， G_k ヲ原点ガ原点
= 移ル如ク $|z| < 1$ = 等角 = 寫像スル函数ヲ $\zeta = g(z)$ トス
レバ，先=証明シタコト=ヨリ

$$|g'(0)| = \frac{1}{d(C T_0 G_k)} \geq 1 = |f'(0)|$$

即チ $1 \geq d(C T_0 G_k)$

シカレ=

$$d(C T_0 G_k) = d([0, \frac{1}{k}]) = \frac{1}{4k} \text{ ①)$$

故= $k \geq \frac{1}{4}$

即チ半径 $\frac{1}{4}$ ノ内ヲ含ム。且ツ G_k ヲ $|z| < 1$ = 等角 = 寫像
スル函数ハ

$$\zeta = \frac{z}{(1+ze^{-i\delta})} = z + \dots$$

①) 長サ $m + 1$ ノ線分ノ超越直径ハ $\frac{m}{4}$ ナラズ。

トナルカラ、 $\frac{1}{4}$ ハ *extremal* ナ値デアル。

—— (証明了) ——

シカニ以上ノ証明デア *Extremalgebiet* が $G_{\frac{1}{4}}$ (δ ハ任意)ニ限ルト云フコトハ証明サレテイナイ。コレが証明出来ルタメニハ (3)ニツイテ

$$l \neq l_0 \text{ ナラバ } d(l) > d(l_0) \text{ ----- (4)}$$

が成立スレバ充分デアルが、コノ尙單ナル証明が思ヒツカナイ。

併シ一方ニツイテ (4)ノ成立スルコトハ必要デモアル。何故ナラバ逆ニ *Extremalgebiet* が $G_{\frac{1}{4}}$ ニ限ルト云フコトヲ逆用スレバ (4)ノ成立スルコトが解ルカラデアアル。従ツテ (4)ヲ定理トシテ述ベルコトモ出来ルワケデアアル。

以上ニヨツテ見レバ *Koebe*ノ定理ハ、要スルニ關係式 (4)即チ有限ノ二点ヲ結ブ *Kontinuum*ノうち超越直径ノ最小トナルノハ二点ヲ線分デ結ブトキデアリ且ツコノトキニ限ル —— ト同等デアアル。

所ガ、前述ノ問題ハ円ト円外ノ一点トガアリ、ソレヲ円外デアーツノ *Kontinuum*デ結ブトキ、ソノ超越直径ノ最小トナルノハソノ点ト最短距離ノ点トヲ結ブトキデアリ且ツコノトキニ限ル⁸⁾ —— ト同等トナル。

8) カ、ル超越直径ノ方カラ考ヘテモ早田氏ノ計算ノ間違ツテイタコトガ直ニ解ル。

何故ナラバ円ニ直交スル充分大ナル円弧ヲトレバソノ超越直径ヲシテ如何様デモ大ナラシメ得ルカラデアアル。(角谷)

コノ立場ヨリスレバ (4) ハ後ノ場合ニテイテ田ヲ点ニ收
斂サセテ極限トモ考ヘ得ベク、從ツテ、ムシロ後ノ場合ヲ一
般ト見ナシ得ルノデアリ、又コノコトハ p. 114 — p. 115 =
於テ述ベラレテイル事項ノ意味ヲ説明スルモノデアロウ。